看護学科　教育目的・目標

教育目的

豊かな人間性を養い、専門職業人としての必要な知識・技術を教授し、保健医療福祉の分野に貢献できる人材を育成する

教育目標

1　深い人間愛を基調とし、看護の対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる能力を育成する
2　対象の多様な価値観を認識し、共感的態度および倫理に基づいた看護を実践できる基礎的能力を育成する
3　豊かな人間性と社会性を身につけ、常に自己啓発する態度を育成する
4　健康問題に対して科学的根拠に基づいた的確な判断と、その解決ができるための基礎的能力を育成する
5　保健医療福祉チームにおける基礎知識を習得し、他職種と協働し、それらを調整するための基礎的能力を育成する
6　社会情勢の変化や科学・技術の進歩に関心をもち、多様化する社会のニーズに対応できる能力を育成する

期待する卒業生像

1　豊かな人間性と社会性を身につけ、倫理に基づいた行動がとれる
2　自己理解、他者理解ができ、寛容である
3　創造的で柔軟な発想ができ、自己啓発できる
4　対象を生活者として捉え、健康の保持増進、疾病予防及び健康の回復にかかわる看護を健康の状態やその変化に応じて実践できる
5　人々の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づき、看護を計画的に実践することができる
6　看護判断に基づき、安全かつ適切に看護を実践することができる
7　保健医療福祉チームの一員としての責任（看護の役割、他職種との連携・協働）を自覚して行動できる
8　専門職業人としての自覚をもち、自己研鑽する態度を身につけ、地域社会に貢献できる

教育課程の基本的な考え方と特色

多様化・高度化する社会のニーズに対応できる看護専門職者（専門職業人）の育成を目指すため、本学科は看護基礎教育を４年間の修業年限とした。

看護は生命尊重・人間愛を基盤とし、人々が生活を営む様々な場で活動を行い、より望ましい健康状態を保てるように援助することである。本学科の看護教育において大切にしたいところは、以下のとおりである。

１）看護の対象である人間をホリスティックな概念で捉え、健康障害という側面のみで捉えるのではなく、生活者として広い視野で理解する。

２）対象の多様化するニーズを認識し、思いやりや誠実さをもち、相手の立場で物事を考えることができる。

３）看護実践に先立ち倫理に基づいて判断することができる。

４）対象の健康水準に応じた看護を提供するために、常に最新の知識や技術を自ら学び続ける姿勢がもてる。

５）健康問題に対して、科学的根拠に基づいた看護実践ができ、保健医療福祉チームの一員として、他職種と連携・協働し、チーム医療の中で看護の役割が果たせる。

これらをふまえ、変化する環境の中にあって、変わらず、社会の要請に応え得る看護専門職者の育成をめざしたい。